

キャリア教育 プログラム

Career Education Program



大阪府立中央聴覚支援学校

進路サポート部

(R 4. 2 改定)

はじめに：本校のキャリア教育について

1 一貫教育におけるキャリア教育の定義

本校は、早期教育相談・幼稚部・小学部・中学部そして高等部・専攻科があり、乳幼児から青年期までの子どもたちが学ぶ聴覚支援学校であることから、保育・教育における一貫教育の充実化をめざしている。各部で、次の教育目標をもとに、それぞれの発達段階に応じて、教育活動を進めている。

「子どもたちの豊かな人間性・社会性の発達を願い、一人ひとりに応じた教育を行う。」

- (1) 障がいに対する認識を深め、たくましく生きる力を育てる。
- (2) コミュニケーション能力の伸長を図る。
- (3) 社会参加に必要な知識と技能の習熟を図り、社会的自立をめざす。
- (4) 人間尊重の精神と態度をはぐくむ。

この教育目標をふまえて、各部でキャリア教育を進めている。キャリア教育について、本校では次のように定義づけ、「キャリア教育プログラム」をもとに一貫教育の推進を図るものである。

幼児・児童・生徒たちが将来の自分を描き、将来に必要なスキルを身につけたり、考えたりする教育であり、各部の発達段階に応じて考え、実践すべき教育。

2 キャリア教育の実践にあたって

本校は、学習指導要領に基づいて、教育課程を編成している。幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる保育・教育を行うとともに、聴覚障がいのある幼児・児童・生徒が社会において自立できる力を身につけるために、「自立活動」という指導領域を特設している。また、聴覚障がいの他にも障がいがある子どもに関しては、その障がいの状態等に応じて、弾力的な教育課程を編成している。

キャリア教育の実践にあたっては、キャリア教育を単独の活動とせず、特別活動を要しつつ、各教科での特質に応じて充実を図る。日常の教育活動の中で育成する能力や技能、態度について、キャリア教育の視点もふまえて、教育活動を進めていくことをめざす。なおキャリア教育の視点から育成をめざす能力や技能、態度は、次の基礎的・汎用的能力に分けることとする。特に（５）の障がい認識に関しては、聴覚障がいのある幼児・児童・生徒が身につけるべき力である。

「基礎的・汎用的能力」については、以下の５領域６能力である。

（１）人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

（２）自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

（３）課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

（４）キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

（５）障がい認識

自己の機能的障がいについて客観的に理解し、参加に困難が生じる活動を予測する。また、困難を軽減し、解決させるために周囲に働きかける力。

- ① 障がい理解 自分の障がいに気づき、多様な人間関係と生活体験を通じてその社会的意味を理解し、周囲に障がいについてわかりやすく説明しながら、理解と協力を呼びかけていく能力。
- ② 情報に関する知識 様々な情報保障の方法について知り、自分にとって最適かつ周囲

にとって可能な保障方法を選択する能力。
また、本校独自の自立活動プログラムがあり、次の方針が明記されている。

本校では、聴覚に障がいのある幼児・児童・生徒が、たくましく生きる力と豊かな感性と言語力をもって社会的自立をめざす教育を進めている。自己の障がいをふまえ、地域・職場等多様な人間関係において理解を広げ、個々の可能性が発揮できるような人間性を育む教育に重点をおいている。

この方針は、上記の基礎的・汎用的能力にも関連しており、キャリア教育を進めていくにあたっては、「自立活動プログラム」とも連動させていくことが重要である。

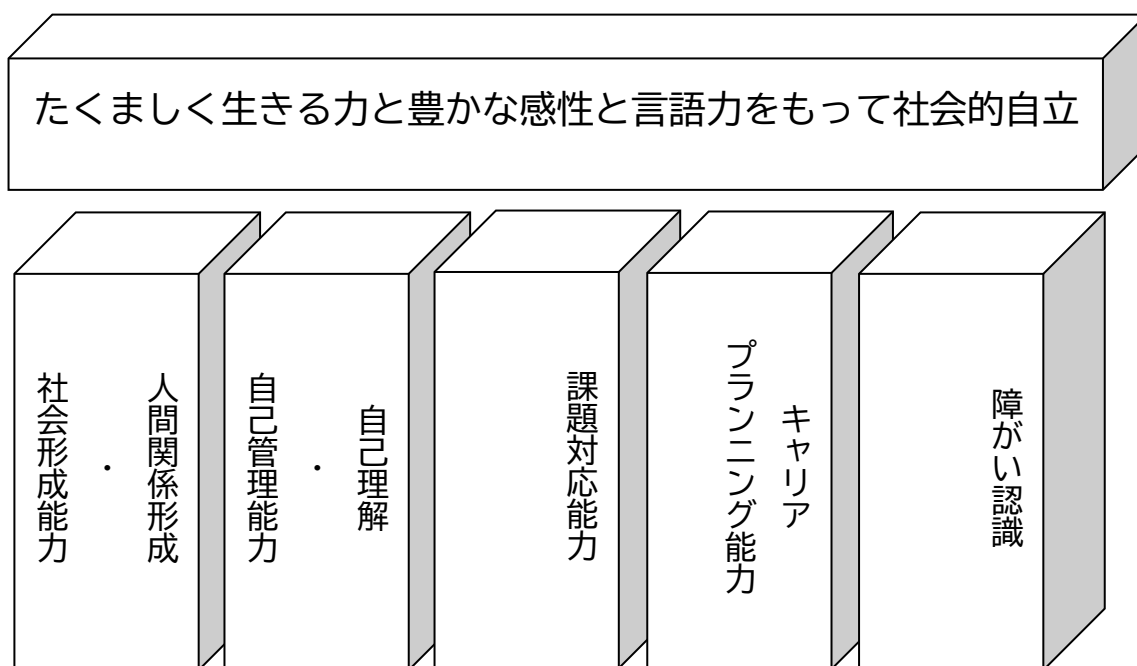


図 「基礎的・汎用的能力」と「自立活動プログラム」との連携

3 校内外の共通理解、連携体制

一貫教育におけるキャリア教育は、全校の教職員の共通理解のもとに、進められていくことが必要である。またキャリア教育とは、一人ひとりが成長、発達していく過程において、様々な経験や人との触れ合いが総合的にかかわってくるものである。本校では、子ども一人ひとりの個別の教育支援計画を作成しており、毎年年度初めに、保護者の願い、本人の希望、アセスメントなどを行って把握した実態に合わせて、長期目標、短期目標を設定している。そして年度末に、目標到達状況を担任、関係者、保護者とともに確認し、目標の見直しを行っている。これらの個別の教育支援計画も併せて、各部で一人ひとりの実態を把握し、進学にあたっては、次の学部を引き継いでいかねばならない。そこで各部間の情報共有、協力・連携の体制が不可欠となる。よって計画的、組織的、継続的な取り組みについて日常的に協議し、実施していく必要がある。

キャリア教育を進めていくにあたっては、関係機関や地域社会との連携も不可欠であり、学校全体として取り組んでいくべき課題である。

4 本プログラムについて

本プログラムでは、聴覚に障がいをもつ幼児・児童・生徒のキャリア教育の定義・目標を定めて、次に各部の年間計画と、幼稚部から高等部までのキャリア教育プログラム一覧表を掲載している。いずれも毎年、幼児・児童・生徒それぞれの実態、その年の状況に合わせ、弾力的に対応することが求められる。

なお、記述されているキャリア教育活動は、基礎的・汎用的能力のいずれかの要素が含まれているが、一つではなく複数の領域・能力にまたがっている教育活動もある。すなわち、キャリア教育はさまざまな領域・能力と関連しており、先述した「全教科・特別活動・自立活動等すべての教育活動全体を通して行う」に、つながっている。

毎年度末に、進路サポート部が見直し、次年度に向けて改定していく。